

Letter for Members 秋 特別号 2003



日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財) 口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成 15 年 10 月 23 日発行

コンテンツ

生涯学習公開セミナー始まる ……………1,2	国際関連学会報告 ……………6,7
学術大会の年 1 回化開催へ向けての 検討始まる! ……………2	国内関連学会のご案内 ……………7,8
顎関節症治療ガイドライン設定 ……………2	日本補綴歯科学会支部学術大会報告 ……………8
Letter for Members 春特別号の アンケート報告 ……………2-4	次回学術大会のご案内 ……………9
国内関連学会報告 ……………4,5	今後の学術大会のご案内 ……………9
	支部会のご案内 ……………9
	第 110 回学術大会開催地の紹介 ……………9,10

生涯学習公開セミナー始まる

歯科医療を取り巻く著しい環境変化のなかで、もはや大学教育で身につけた知識、技術だけでは、患者のニーズに十分に対応することが難しくなっています。そのため、歯科医 1 人ひとりが生涯を通して絶えず新しい知識や技術の習得に取り組むことが必要になってきました。

平成 15 年度に発足しました日本補綴歯科学会・生涯学習検討委員会では、生涯学習の環境基盤整備について検討しております。生涯学習を推進するには、まず臨床家が参加したい、学びたいという関心、意欲に沿うような研修の場の提供が重要となります。そこで、各支部の協力を頂き、「生涯学習公開セミナー」を企画致しました。

「生涯学習公開セミナー」は学会員ばかりではなく、非会員の臨床家も対象とし、補綴の知識や技術の向上を目的とし、支部の活性化をも視野にいたした新しい試みです。どなたも無料で参加できます。1 人でも多くの方が参加者されるよう、アナウンス頂ければ幸いです。

今年度は 5 回の開催が予定されていますが、すでに開催が決定されている「生涯学習公開セミナー」の支部（テーマ、日時、場所）をお知らせいたします。ほかの支部におきましても順次開催

を予定しておりますので、その都度ホームページ、ニュースレターなどでお知らせいたします。

(生涯学習検討委員会 早川 巖)

2003 年生涯学習公開セミナーご案内

1. 中国・四国支部

開催日時：平成 15 年 9 月 7 日（日）

13:30~15:30（実施済み）

開催場所：鳥取県立県民文化会館

（鳥取市尚徳町 101-5）

テーマ：コンプリートデンチャーを再考する

講師：早川 巖（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能評価学分野教授）

中尾勝彦（尾道市開業、日本補綴歯科学会中国・四国支部長）



早川 巖先生



中尾勝彦先生

2. 九州支部

開催日時：平成 15 年 11 月 29 日(土)

15：00～17：20

開催場所：沖縄県市町村職員共済組合自治会館
(那覇市旭町 14)

テーマ：審美的インプラントの上部構造の製作法

講師：城戸寛史 (福岡歯科大学咬合修復学講座助教授)

「最近のインプラントの特徴」

山下恒彦 (デンテック代表取締役)

「プロセラシステムを用いた最新補綴事情」

内海賢二 (愛歯・東京営業所所長)

「クリエーション陶材を用いたジャケット
トクラウンの製作法」

3. 東海支部

開催日時：平成 15 年 11 月 30 日(日)

14：40～16：50

開催場所：アクトシティ浜松
(静岡県浜松市板屋町 111-1)

講師：北川原 健 (長野市開業)

「補綴を支える歯周処置」

蒔田真人 (静岡市開業)

「日常臨床における精密印象」

学術大会の年 1 回化開催へ向けての 検討始まる！

2002 年春、全評議委員に対して行った「補綴学会の年 2 回開催の問題点のアンケート結果」を踏まえ、学術大会の年 1 回化の実現に向けた検討が始まった。

平成 15 年 8 月 30 日(土) 第 1 回日本補綴歯科学会年 1 回化ワーキング (メンバー：大山喬史会長、赤川安正、野首孝祠両副会長、平井敏博、河野正司、櫻井 薫、冲本公繪、早川 巖の各理事、馬場一美、越野 寿、鈴木哲也の各幹事) が東京医科歯科大学にて開催された。

本ワーキングは、年 1 回化にすることでどんな問題があり、それらがどう解決できるのか、これらの解決策ができれば年 1 回化ができるとの前提で協議をして欲しいとの大山会長の指示のもと、今後、赤川副会長を本ワーキング座長、越野庶務幹事を幹事として、支部学会や生涯教育セミナー、認定医申請、発表方法、総会機能その他について検討を進めていくことになった。

(副会長 赤川安正)

顎関節症治療ガイドライン設定

日本歯科医師会疑義解釈委員会において、口腔外科学会社会保険委員会提案と日本補綴歯科学会「顎機能障害の診療ガイドライン」に基づいて、「病診連携のための顎関節症治療ガイドライン」がほぼ大枠で合意に達し、現在、厚労省に対する最終答申案を調整中である。

「治療対象と治療目標をどのように設定するか」という見地から検討されたものである。

顎関節機能障害度分類により 4 段階 (障害なし、障害軽度、中程度障害、重度障害) に分類し、それに基づき一次医療機関と高次医療機関の治療対象と治療目標を設定する。また一次医療機関より高次医療機関への紹介基準を設定することを基本とするガイドラインである。

【詳細はホームページに掲載予定】

(医療問題検討委員会 市川哲雄)

Letter for Members 春特別号の アンケート報告

第 109 回日本補綴歯科学会学術大会時に発刊した Letter for Members 春特別号で行ったアンケート結果を報告する。質問、ご意見に対する回答は、該当する委員会の委員長が行った。

アンケート項目

- 1) 学術大会に関するご意見
- 2) 日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望
- 3) 広報委員会に対するご意見・ご希望

1) 学術大会に関するご意見

● 今回もそうでしたが上下顎歯列弓を上下顎「じょうげがく」と話す演者が多くみられます。席序列の時は上下「じょうげ」ですが、上下顎のときは「じょうかがく」と発音するのが正しい筈です。

回答 (用語検討委員会)

委員会で種々検索しましたが、明確な基準は不明でした。しかし、委員会としてはご指摘の通り、「じょうかがく」を推奨いたします。

- 今回の第2会場では、狭くて立見が多く、入りきれないで退場した会員も多くみられた。

何年前か前、どこかの会場（忘れた）でもあった。メイン会場は広すぎ、第2、第3会場は狭すぎというのは、公設の会場ではよくあることだが、下見の際にしっかり確かめることが重要。また、座長もしっかり会場をみて整理することも必要。

- 第1、第2会場の大きさの差がありすぎた。

回答

主管校は努力はしておりますが、会場の件は地域性などがあり、現実問題として理想的な会場設営は難しい場合もあります。

- 現在、世の中は禁煙の傾向にあるが、歯科界では本学会を含め、会場内で休息できる場所には必ず灰皿があり、タバコを吸わない人も多いのに、そういう先生たちの休息する場所がない。歯科医も“医”なのだから、会場施設内は全面禁煙にするべきだと思う。

できなければ、換気のできる場所での喫煙に限定してもらいたいと思う。ぜひお願いします。

- メインテーマに沿った企画でした。臨床シンポジウムも興味深いものでした。もう少し、臨床スライドを用意して欲しい。

- ポスター発表からデンツプライ賞が選ばれるが、“デンツプライ三金”は、1-3-18 共同演者、2-3-3 試作品の供与、2-3-10 共同演者のように関与している。

辞退すべきか、デンツプライという冠をとるべきである。前回のときも共同演者に名を連ねていた。もし、これらが受賞すれば問題である。

回答（学術委員会）

賞の選考は全評議員が行うことになっており、特に問題は無いと考えられます。また、今回は受賞対象からはずれています。しかし、今後ご指摘の点に関しては検討いたします。

2) 日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

- 人工歯排列と用語集には書かれておりますが配列が正しいと思います。国語学者に聞いて訂正する必要があります。配列には配りながら並べるという意味で排列とは全く違うように思います。大山会長なら理解してくれると思います。

回答（用語検討委員会）

「排列」と「配列」とは、「順序よく並べると」という意味で、基本的には同義語ですが、大字典（講談社）、日本語表記大辞典（三宝出版）、漢和大字典（学研）、新明解国語辞典（三省堂）など、いずれも「排列」をメインとしております。補綴分野では、かつては「配列」を用いたこともあるようですが、近年は「排列」を慣用語としておりますので、「人工歯排列」は現行のものでよろしいかと考えます。

- 認定医について

開業してしまうと更新がかなり困難になってくるので、開業医の認定について更新規定を考えて欲しい。

回答（認定審議会）

認定医資格に更新の義務があるのは、認定医が認定医にふさわしい力量をずっと維持していく必要があるからです。歯科医療は日進月歩であり、勉強を怠れば認定医という専門資格を失うことになるのは、認定医が専門分野の知識や技量に秀でていると日本補綴歯科学会が認める「専門医」のお墨付きであることを考えると当然といえます。

何とか、5年間に最低1編の論文発表あるいは1回の口演発表を行って下さい（共著者か共同発表者でかまいません）。それ以外の更新必要単位は学術大会などへの参加で補っていただけたらと思います。国民への説明責任を考えると、認定医の資格のない認定医をつくることは許されません。どうかご理解のほどをお願いいたします。

認定審議会としては、開業医の方々は平日に開催される学術大会には参加しにくいという事情があるので、4単位が取得可能な認定医研修会を支部学会において、あるいは単独で日曜日に開催する方向で検討を進めたいと考えております。

- 補綴学会は基礎研究で表、グラフなどの発表が多いが、開業医としては明日からすぐにも診療に取り入れることができるような臨床的な発表

も多く取り入れて欲しい。会員も実際は開業して診療を主にしている先生方が多いように思います。それにより、国民へのアピールにつながると思います。

回答（学術委員会）

開業医の先生方にもできるだけ多く学会に参加していただきたいと考えていますので、今後とも臨床テーマを取り入れるよう努力していきます。

● 学会誌に依頼論文を増やしてもらいたい。依頼論文だけでもカラーページを増やす配慮があっても良いのではと考えます。

回答（編集委員会）

現在、編集委員会では特集の企画を検討しており、依頼論文を増やすことを考えております。カラーページに関してですが、予算面を考慮したうえで、できるだけ増やし、読みやすい誌面にしよう努めていきます。

3) 広報委員会に対するご意見・ご希望

● すばやくなった News letter 大変結構です。このスピードを続けて下さい。

今回も最後のページに切り離しアンケートを用意いたしました。皆さまからの忌憚のないご意見をお待ちいたしております。

(広報委員会)

**優れた機能性と
高い審美性を追求しています**



ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪3-26-33 秀和品川ビル6F

TEL. 03-5423-4491 FAX. 03-5423-4521

<http://www.nobelbiocare.com>

国内関連学会報告

第33回日本口腔インプラント学会

7月18日（金）から20日（日）の会期で、今期から日本口腔インプラント学会会長に就任された川添堯彬先生（大歯大）のもと、第33回日本口腔インプラント学会総会・学術大会（第24回日本口腔インプラント学会中部支部総会併催）が、中部支部支部長である蒔田真人先生を大会長として名古屋国際会議場において開催された。

医療をとりまく環境の変化は、歯科界にさらに厳しい逆風となる様相も呈しているともいわれる昨今、「インプラント治療は歯科界の救世主となりうるかも」との期待度と注目度が、主催者側が予想した参加者数をはるかに超える1,400名余りということにも現れていた。

メインテーマを「わが国における口腔インプラントの最先端」とし、演題数213題と多数の発表が行なわれ、またこのうち46題が認定医取得のための認定医ケースプレゼンテーションと、その関心度の高さがうかがえた。企画講演は「再生医療」、「骨再生」、「歯槽骨延長術」、「即時荷重」、「機能と審美の調和」など最先端の研究と臨床テーマで構成され、1,300名収容の会場はフロアーに溢れる聴衆で超満員であった。

特別講演Ⅰでは「インプラントと再生医療—実用化のすすむ骨再生—」と題し上田 実教授（名大院医学研究科）が、特別講演Ⅱでは「骨延長を利用した Ridge Augmentation」をテーマとし、三次正春先生（香川県立中央病院歯科）が講演された。

教育講演は2題で「インプラント修復における機能と審美の調和」を榎本紘昭先生（新潟再生歯学研究会）が、「インプラントにおける即時荷重の最先端」を小宮山彌太郎客員教授（東歯大）が講演された。

さらにシンポジウムテーマは「口腔インプラントにおける骨造成の最先端」と題し、岡崎恭宏先生（津島市民病院）、澤 裕一郎先生（藤枝市立総合病院）、菅井敏郎教授（東医歯大）により最先端医療の報告がなされた。

また、認定医更新用教育講座では諏訪文彦教授（大歯大）が「インプラント植立後の咀嚼開始時期を求めて—骨組織・微細血管構築から見えて—」

と題し講演された。

本大会では協賛会員による広告・展示が90社以上に加え、歯科技工士と歯科衛生士のためのコ・デンタルスタッフの2セッションが企画されたことも参加者増加の一因と考えられ、主催者側が嬉しい誤算と悲鳴をあげながら、抄録をコピーで追加しているのが印象的であった。

(広報 沖本)

第22回日本歯科医学教育学会

7月11日(金)、12日(土)に、第22回日本歯科医学教育学会が、大会長：熱田 充教授(長大院)、準備委員長：藤井弘之教授(長大院)のもと、長崎県の長崎大学医学部記念講堂ならびにポンペ会館において開催された。

特別講演Iは「水俣病から学ぶもの」と題し原田正純教授(熊本学園大学社会福祉学部)が、また特別講演IIでは「歯学教育改革―標準化から個性化へ―」について、江藤一洋教授(東医歯大)が講演された。

シンポジウムIの「客観的臨床能力試験OSCEについて」は齋藤宣彦先生(聖マリアンナ医科大学)、小川哲次先生(広島大学歯学部附属病院)のお2人の先生が講師を務められた。

また、シンポジウムIIの「新しい臨床基礎実習の試み」では、内山洋一先生(北大名誉教授)、山本宏治先生(朝日大)、松浦正朗先生(福歯大)、辻 武司先生(広大院)の4人の講師が講演された。

さらに、口頭発表が34題、ポスター発表が54題あり、日本全国の多岐の講座から多くの出席者が集まり、教育が抱えるさまざまな問題点について、大変活発なディスカッションが行われた。今後の歯学部・歯科大学の方向を模索するうえで、大変有意義な学会であった。

(広報 北川)

第18回日本歯科心身医学会

第18回日本歯科心身医学会が、平成15年6月28日(土)、29日(日)、東京都・文京シビックホールにおいて小林義典教授(日歯大)を会長として開催された(口頭発表34題)。

シンポジウムでは「心身症と顎関節症」のテ-

マのもとに、小林義典教授(日歯大)、石橋寛二教授(岩医大)のお2人が講演された。

本学会の特徴は学際的なことであり、会場ではそれぞれの専門のバックグラウンドをもとに、境界を越えた意見交換が活発に行われた2日間であった。また、6月28日開催の懇親会でもビールを片手にいたるところで、本音を交えた熱心な議論が行われていたのが印象的であった。

(広報 貞森)

第14回日本老年歯科医学会

第14回日本老年歯科医学会が、平成15年6月18日(水)から20日(金)、名古屋国際会議場(名古屋市)において、川口豊造教授(愛院大)を会長として開催された(口頭発表30題、ポスター発表35題)。

今回は、第23回日本老年学会として6学会(日本老年歯科医学会、日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネージメント学会)の合同開催のため、各専門分野から多数の出席者があり、また関連器材の展示がなされていた。

そして、老年歯科医学会からは合同ポスターとして10題が発表された。また合同プログラムの教育講演で本学会の野村修一教授(新大院)が「高齢者の健康寿命と口腔機能の保持」の題目で講演された。各会場で、高齢者社会が抱えるさまざまな問題点に対し、活発な意見交換が行われた3日間であった。

(広報 貞森)

Tokuyama Dental
「ソフト感の持続」と「タフな接着」を両立!
歯床用長期弾性裏装材(直接法/間接法)
リフライナータフ
お! 痛くない!
歯床用長期弾性裏装材(直接法/間接法)
標準医院価格 ¥18,000/セット
医療用具承認番号 Z14501ZZ30297000
※専用ディスプレイ「トクヤマディスプレイ」は別売です。
製造・販売
株式会社 トクヤマデンタル <http://www.tokuyama-dental.co.jp>
インフォメーションサービス ☎0120-54-1182
受付時間(土・日祭日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00
●札幌 TEL 011-850-2340 ●仙台 TEL 022-717-6444
●東京 TEL 03-3835-7201 ●名古屋 TEL 052-932-6851
●大阪 TEL 06-6386-0700 ●福岡 TEL 092-412-3240

国際関連学会報告

The 10th Meeting of the International College of Prosthodontists (ICP)

2年に1度開催される第10回ICPの学術大会が2003年7月10日(木)から13日(日)の会期でHalifax, Nova Scotia Canadaで開催された。

今回のPresidentであるAkagawa Y (Japan), Lloyd PM (USA), TreasurerのKoyano K (Japan)らの企画による補綴医療の最前線の情報がちりばめられたプログラム構成がなされていた。主なFocus sessionを以下に示す。

1) Innovations in Prosthodontic Technologies
遺伝子治療をはじめとした補綴治療のイノベーションについて世界の第一線の研究者6名 Baum B, Hata K, Wright R, Yatani H, Naert L, Jones Dが講演された。

2) International Prosthodontic Training Program

世界各国の補綴専門医制度と補綴専門医養成プログラムに関する講演とディスカッションでは, Klineberg I, Howe L, Kawasaki T, Owall B, Gerrow J, Campbell Sから各国のプログラムの紹介が行われた。

3) The Toronto Summit Symposium

Dr. Zarb Gの呼びかけで2002年11月にトロントで開催された補綴学に関する国際シンポジウムの要約がZarb G, MacEntee M, Hobkirk J, Davis D, Stohler Cにより報告された。

4) Current Controversies in Implant Prosthodontics

インプラント補綴治療の最新の問題点について



世界の第一線の研究者5名 Strub J, Cooper L, Mericske-Stern R, Wismeyer D, Eckert Sが講演された。

30以上の世界各国から、また日本からはSARS関連で参加辞退者もあったが、30余名のエントリーがなされていた。

恒例のPoster awardのYoung部門でTakeuchi M (Hiroshima Univ., Japan)が受賞の栄誉に輝き、ICP Reception and Banquetで表彰されたのは大変喜ばしいことであった。



Dr. Takeuchi M (中央)と Presidents Akagawa Y (左), Lloyd PM (右)

次回、第11回ICP学会は2005年6月The Island of Crete (Greece)で予定されている。

(広報 沖本)

81st General Session of the IADR

2003年6月25日から28日の期間、スウェーデン王国エーテボリ市にて、81st General Session of the IADRが開催された。今回のIADRは、当初イスラエルのエルサレムで開催されるとアナウンスされていたが、当地の政情不安などにより、エーテボリで代替開催されることになったのである。さらに、今回は、学会直前にSARSによる国際間移動の混乱が起こったため、学会が開催されるまでどうなるのか不安に包まれたものとなった。

実際には、抄録に掲載された演題数3,100余のうち数%程度の取り下げもみられたが、非常に活気がある学会となっており、オーラル、ポスター

セッションいずれにおいても活発な質疑応答が行われていた。また、特に今回特徴的だったのは、プログラム成立後の演題取り消しがいくつかあったため、取り消し演題の時間（15分）を、それまでに発表された演題のディスカッションに使っていたことであった。100人程度の会場で、非常に熱いディスカッションが行われていたことは、日本の学会ではみられないものであった。しかし、オンサイトでの登録手続きに非常に長い時間（1時間以上）を有したことは、次回以降改善を求めたいと感じた。



ポスター会場

補綴分野で登録されている演題は、一般演題2,981演題のうち、101演題であった。補綴分野以外にも、インプラント、材料やTMJなど、関連する演題を入れると補綴学に関連する発表は多くを数えた。

次回のIADRは、ハワイにて来年3月10～13日の日程で開催される。国際情勢が不安定で、半年後の海外渡航の目途も明らかでないが、参加して知識と活力を吸収したいと考えている。

(リポーター：九大院 鮎川)



リポーター：写真左から2人目

国内関連学会のご案内

第14回日本歯科審美学会学術大会

日時：平成15年11月1日（土）、2日（日）
会場：広島県歯科医師会館，エソール広島
大会長：新谷英章（広大院）

会長講演

「歯科審美の社会的評価に関する一考察」

石橋寛二（岩医大）

特別講演

「星と宇宙」

牟田泰三（広大学院）

教育講演

「口もとの美」

大山喬史（東医歯大院）

「韓国の審美歯科事情」

Jong-Yeop Lee（韓国歯科審美学会会長）

シンポジウム

「審美歯科における癒（いや）し」

連絡先：準備委員長 富士谷盛興

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

広島大学大学院医歯薬学総合研究科

顎口腔頸部医科学講座（保存修復学研究室）内

第14回日本歯科審美学会学術大会事務局

TEL：082-257-5656，FAX：082-257-5659

E-mail：morioki@hiroshima-u.ac.jp

http://www.jdshinbi.net/

第51回JADR総会・学術大会

日時：平成15年12月1日（月）、2日（火）
会場：千里ライフサイエンスセンター
大会長：雫石 聰（阪大院）

特別講演

Pathogenic Strategies of *Porphyromonas gingivalis*; Dr. Richard John Lamont (University of Florida, College of Dentistry)

シンポジウム

「歯周病の感染制御をめざした先端研究と臨床への応用」

「タバコ研究における口腔科学の役割」

「インプラント埋入体表面の修飾」

ランチョンシンポジウム

「Cariology 最前線」

公開シンポジウム

「口の悩みを科学する」口の悩みを先端口腔科学が解明する

連絡先：準備委員長 永田英樹
大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座予防歯科学分野
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-8
TEL：06-6879-2922, FAX：06-6879-2925

第22回日本接着歯学会学術大会

日時：平成16年1月24日（土）、25日（日）
会場：鹿児島市民文化ホール
大会長：田中卓男（鹿大院）

連絡先：事務局長 鬼塚 雅
準備委員長 梶原浩忠
鹿児島大学大学院歯医学総合研究科咬合機能補綴学講座
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
TEL：099-275-6212, FAX：099-275-6218
<http://www.adhesive-dent.com/>

日本補綴歯科学会支部学術大会報告

第29回中国・四国支部学術大会

第29回中国・四国支部学術大会が、9月7日鳥取市の鳥取県立県民文化会館で伊藤楯樹先生を

大会長として開催された。当番校は、岡山大学大学院歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野であった。本支部の学術大会は、中国・四国の地元歯科医師会が中心となり開催されることが特徴で、中国・四国の各地で開催されてきた。鳥取市での開催は、2回目である。

今回の大会は、「全身健康と補綴治療」がメインテーマであった。特別講演〔河野文昭先生（徳大）、「総義歯の咬合様式を考える」；座長・中尾勝彦支部長〕、シンポジウム〔「歯科医療の全身健康への関わりをいかにひもとくか」、西村英紀先生（岡大院）・吉田光由先生（広大院）・沖本公繪先生（九大院）；座長・窪木拓男先生（岡大院）〕が行われ、これからの補綴学に種々の示唆を与えるものであった。ポスター発表13題で活発な討論が行われ、ランチョンセミナーには多くの非会員の姿もみられた。また認定医申請ケースプレゼンテーションは2題であった。

本支部大会の初の企画としてランチョンセミナー〔「補綴専門医として義歯安定剤と関わるには」、濱田泰三先生（広大院）；座長・伊藤楯樹大会長〕、そして生涯学習公開セミナー〔「コンプリートデンチャーを再考する」早川 巖先生（東医歯大院）、中尾勝彦先生〕が行われた。若い先生方の多数の参加が認められ、これからの発展が期待される企画となった。

今回の開催地は交通の便がやや不便であったにもかかわらず、補綴学のみならず歯科界に種々の示唆を与える多数の参加者で有意義な大会であった。

（広報 貞森）

クラスプが開閉できる少数歯欠損のためのデンチャー

カムデンチャー

新登場



遊離端欠損用傾側クラスプの開閉

和研精密歯科株式会社 大阪本社
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路6丁目1-41
TEL (06)6321-2101(大代表)

<http://www.labowada.co.jp>



↑シンポジウム各講師
←ランチョンセミナー
濱田泰三先生（広大院）

次回学術大会のご案内

第111回日本補綴歯科学会学術大会 第2回 日・韓共同学術大会

開催日：平成16年5月21日（金）、22日（土）
会場：文京シビックホール
大会長：大山喬史（東京医科歯科大学大学院）

今後の学術大会のご案内

第112回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成16年秋
会場：神奈川県内
大会長：豊田 實（神奈川歯科大学）

第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年春
大会長：野首孝祠（大阪大学大学院）

第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年秋
大会長：河野正司（新潟大学大学院）

支部会のご案内

東関東支部

開催日：平成16年2月8日（日）
会場：彩の国すこやかプラザ
大会長：蓮見健壽（担当校・明海大学）

東京支部

開催日：平成16年2月21日（土）
会場：日本大学会館
大会長：三浦宏之（東京医科歯科大学大学院）

西関東支部

開催日：平成16年1月11日（日）
会場：パシフィコ横浜
大会長：藤田忠寛（神奈川歯科大学）

東海支部

開催日：平成15年11月30日（日）
会場：アクトシティ浜松
大会長：藤原康功（担当校・松本歯科大学）

関西支部

開催日：平成16年2月29日（日）
会場：兵庫県歯科医師会館
大会長：江藤隆徳（大阪歯科大学）

九州支部

開催日：平成15年11月30日（日）
会場：沖縄県市町村職員共済組合自治会館
大会長：佐藤博信（福岡歯科大学）

第110回学術大会開催地の紹介

第110回学術大会大会長 甘利光治
第110回日本補綴歯科学会学術大会が、いよいよ開催できる運びとなりました。皆様に、大変ご迷惑をお掛けしながら、過分のご協力をいただき心から感謝いたしております。主管校を代表してお礼申し上げます。

学術大会の詳細は、プログラムに記載されていますように、メインテーマ“新しい歯科補綴のパラダイム”のもとに、明日からの臨床、研究、教育に役立つ豊富な内容が網羅されています。ぜひ

NC VERACIA

ナノテクノロジーと機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の歯科医に貢献する **株式会社 松風**
本社●〒805-0983京都市東山区福福上高松町11-1 TEL(075)561-1112(代)

とも有益な場として参加いただき、ご活用くだされば、幸甚の至りです。

折角の山岳観光都市信州での開催です。大会の前後に観光地に出向かれ、また信州独特の食文化を満喫していただきたいと思いますので、いくつかご紹介させていただきます。

北信濃の美しい山並みに抱かれた中核都市長野は、北に飯綱山が穏やかな姿でそびえ、戸隠連峰や北アルプスの峰々が顔を覗かせます。市外の周囲には千曲川がゆったりと流れ、そこに北アルプスの清流を集めた犀川や裾花川が合流しています。そのような環境のなかに1,400年の歴史を刻む国宝善光寺（写真）をはじめ、歴史的・文化的遺産が残る城下町「松代」、上杉謙信と武田信玄が決戦を繰り広げた川中島古戦場、長野オリンピック記念館を併設するエムウェーブ、郷土の美術館「東山魁夷館」「池田満寿夫美術館」、さらに周辺市町村には、日本を代表する景観、上高地（写真）、全国に名高い北斎と栗の里「小布施」、蔵の町須坂を代表する田中本家博物館などの見飽きることのない観光地が数多く存在します。

また、お楽しみのお食事は、全国ブランドの店ごとに異なる自家製「信州そば」を始め、最近特に注目を集めつつある「おやき」もまた本場で食してみたいものです。馬刺しも名物のひとつです。さらに、信州といえば、ワインの名産地として、つとに有名であります。

海の幸とはいきませんが周辺を高い山で囲まれた信州独特の山国の幸をご賞味ください。

なお、会場には当地の観光情報、交通・宿泊などの観光案内ブース（JTB 担当）を設置しておりますのでお気軽にご利用ください。



善光寺



上高地

広報委員会から会員の皆様へ

広報委員会委員長 沖本公繪

われわれ広報委員会は、「Letter for Members」と学会ホームページが会員と執行部の双方向の意見交換が可能になる情報提供メディアの役割をはたしたいと考えております。

学術関係のトピックスはもちろん、いかに会が運営されているのか、今抱えている問題は何か、補綴の現状と将来を展望するための多方面からの情報を、できるだけリアルタイムで、多くの会員の皆様に情報をお届けできるように務めていきたいと考えております。

どうぞご一読下さいますようお願い申し上げます。

日本補綴歯科学会や広報委員会に対する会員の皆様の率直なご意見、ご感想をお尋ねするために、広報委員会専用のメールアドレス【kohoips@dent.kyushu-u.ac.jp】を設けております。是非ご利用下さい。

また、今回も学術大会や、日本補綴歯科学会に対するご意見、ご感想をいただくための専用ページを、ニュースレターの最後に設けました。

会員皆様の率直な「声」をお待ちしております。ご記入後は、切り取り線にて切り離し、アンケートボックスにご投函下さいますようお願い申し上げます。

学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長：沖本公繪

副委員長：北川 昇

委員：貞森紳丞、瀧野 徹、松山美和

幹事：諸井亮司

TEL：092-642-6371, FAX：092-642-6374

E-mail：kohoips@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座
咀嚼機能制御学分野

MEMO

学術大会に関するご意見

切り取り線

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

広報委員会に対するご意見・ご希望

アンケートボックスへご投函下さい

切り取り線

学術大会に関するご意見

日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望

広報委員会に対するご意見・ご希望